

要旨

【目的】 S市におけるY地域スポーツクラブ(以下Yクラブ)の活動実態を明らかにし、Yクラブへの参加が児童の心身の健康にどのような影響を及ぼしているのかについて一般の小学校児童(Yクラブ非参加)と比較し、明らかにすることを目的とした。

【調査対象・方法】 調査対象は、S市におけるYクラブ参加児童4～6年生39名および、S市内のYクラブ非参加T小学校児童(以下T小児童)4～6年生380名である。調査方法は、無記名の自記式アンケート調査法を用いた。Yクラブのアンケートは、クラブを通して配布し記入を家庭にて行った。回収については、クラブ参加時とし、その場で回収または主宰者への提出とした。T小児童のアンケートも同様の無記名の自記式アンケート調査法を用い。質問紙の回答は学級活動内で、担任教師の教示のもと行われた。回収率は、クラブ95.1%、小学校97.5%であった。調査実施期間は11月下旬から12月上旬である。

調査内容は、①Yクラブの活動実態調査として、「観察」「クラブ主宰者およびスタッフへのインタビュー」「参加児童および親へのアンケート調査」。②Yクラブ参加児童およびT小学校児童への共通のアンケートによる調査として、「基本的属性」「身体活動(運動)への取り組みに関する項目」「基本的生活習慣に関する項目」「身体症状に関する項目」「意欲性に関する項目」「情緒の安定性に関する項目」「向社会性に関する項目」で構成されている。分析の方法は、「SPSS 14.0J for Windows」を用い、平均値の比較については、正規分布に従うといえないと判断し、Kruskal WallisのH検定後、Mann-WhitneyのU検定による多重比較を行った。有意水準は5%以下とした。

【結果と考察】 Yクラブの参加児童および親への調査からは、参加児童および親がクラブ活動を肯定的に受け止め、期待を寄せていることが明らかとなった。また、S市は、本クラブ活動を「総合型地域スポーツクラブモデル事業」として指定し、K県は2007年4月より「総合型地域スポーツクラブ」に指定し、活動を推奨している。T小児童との比較による分析の結果、クラブ活動内容が参加児童の心身の健康に影響を与えているのではないかと考えられた。参加児童の心身の健康へプラス面の影響が明らかとなれば、活動の成果を肯定的に捉えることとなり、参加者の利益にもつながる。Yクラブの特色である「親子共同参画」の形態が、運動への取り組みを促し、近年危惧されている子どもの体力低下改善の一助となると考えられ、国や自治体の期待する家庭と地域連携による新しい地域スポーツ活動のひとつのモデルにもなり、積極的に提唱できると考える。